

一般財団法人 同友会  
「法人目標」

- ① 24時間、迅速急性期医療と専門性を持つ医療の充実
- ② 医療、保健、福祉における包括サービスの提供
- ③ 地域コミュニティ形成を目指す健康増進の推進
- ④ すべての職種に対する医療者としての教育、研修の場の確立

藤沢湘南台病院  
「病院理念」

- ① 信頼とやすらぎのある医療
- ② 専門性と倫理観のある医療
- ③ 地域に貢献する医療

# 明けましておめでとうございます

4月から「医師の働き方改革」が日本全国約8300の医療機関で開始されます。我が国の医療は長らく医師の自己犠牲的な長時間労働に支えられてきました。2019年に厚生労働省の研究班が行った「医師の勤務実態調査」では、病院勤務医の約40%が「過労死ライン」とされる年間960時間を超えて時間外労働を行っていました。

2024年は我が国の医療界にとって大きな変革の年になります。2つの制度上の変化がありますのでご紹介いたします。

藤沢湘南台病院

院長 熊切 寛



2022年5月にはある病院の26歳の研修医が過労自殺に追い込まれたという悲しいニュースがありました。ある報告では医師の長時間労働は医療事故を誘発し患者様の不利益に繋がるというデータがあります。こうした現状を改善しようという国がスタートさせるのが「医師の働き方改革」です。

今までは患者様に何かあれば24時間、365日主治医が対応していましたが、今後はそういった対応はできなくなりますが、したがって主治医制からチーム制に移行することになります。

また医師の勤務時間外に患者様やご家族への病状説明も難しくなり、院内でタスクシフトやIT化を進めてなるべく医師の業務を効率化、簡素化させていく予定です。

もう一つの重大な変革は「紹介受診重点医療機関」です。この制度は2023年9月から開始されていますが、国の制度見直しにより新設されたものです。



具体的には、藤沢湘南台病院の外来を受診する際には「かかりつけ医」からの紹介状が必要となり、当院の外来は手術や処置や化学療法を必要とする外来に特化し専門的な検査や治療を重点的に行う、ということです。

今までは「何かあれば湘南台病院へ」という流れでしたがそれができなくなりますが、何かあればまず「かかりつけ医」を受診することが基本となります。紹介受診重点医療機関に指定されたことで、藤沢湘南台病院は「かかりつけ医」の役割を外れることとなります。また当院の外来で症状が安定した場合は「かかりつけ医」に逆紹介するという流れになります。

パレスチナ問題、ウクライナ情勢、気候変動、世界は激動の動きを示していますが我が国の医療界も例外ではありません。今年は診療報酬改定もあり大きな動きが予想されます。藤沢湘南台病院はこれからも地域医療に貢献するというミッションを達成すべく努力して参ります。

どうぞ今年も宜しくお願致します。

## 藤沢湘南台病院は、紹介受診重点医療機関に指定されています

### 1 紹介受診重点医療機関とは？

手術・処置や化学療法等を必要とする外来、放射線治療等の高額な医療機器・設備を必要とする外来などを行っています。



### 2 紹介状を用いた場合の受診のながれ



- ・ 医療機関を受診後、他の医療機関での診療が必要と判断された場合、紹介状が発行されます。
- ・ 紹介受診重点医療機関からは、かかりつけ医や身近な医療機関などへの紹介状を発行してもらいましょう。
- ・ 医療機関どうしの役割分担により、患者さんが適切な検査や治療をよりスムーズに受けられるようになり、待ち時間の短縮などが期待されます。

### 3 紹介受診重点医療機関の情報は、都道府県や厚生労働省のホームページをご覧ください！



もっと、くわしく知りたい方は、  
厚生労働省 紹介受診重点医療機関



藤沢湘南台病院



皆様 明けまして

おめでとうございます

2023年を振り返ってみますと、色々な出来事がありました。中でも、ChatGPTを生み出した米国のベンチャー企業、OpenAIの創業者サム・アルトマンCEOが、突然解任されたというニュースは衝撃でした。すでに、多方面でChatGPTは活用されており、当法人でも循環器内科の福島部長から活用法の講義を行っていただいたところでした。

ChatGPTを活用しながら業務効率化を図ろうと思っていたので、これは参ったなと思ったのですが、なんとか、1週間ほどでサム・アルトマンがCEOに復帰するということになりホッとしました。

せっかくなので、いくつか条件を入れて、ChatGPTに緑陽向けの文章を書いてもらいました。

「明けましておめでとうございます。2023年は、変化の風が吹き荒れた一年でした。藤沢湘南台病院では、その風を受け入れ、新しい一歩を踏み出しました。私たちは、不確かな時代を生きる船乗りのように、時には荒波に揉まれながらも、常に患者さんの安全と健康を第一に考えて航海を続けました。

私たちの航海日誌には、数え切れないほどの新しい発見と経験が記されています。病院としても、新たな試みを始めました。その中で、私たちは新しい医療技術の導入、そして外来待ち時間を削減する取り組みをしました。

病院としても、これを大きな誇りとし、さらなる成長の機会として捉えています。2024年も、私たちは一つ一つの瞬間を大切に、患者さん一人ひとりの物語に耳を傾けながら、最高の医療を提供することをお約束します。新しい年の始まりにあたり、皆様の健康と幸福を心からお祈りしております。」という文章をChatGPTが出力してくれました。

この文章、違和感が強いですね。こんなに変な文章になってしまったのは、システムが悪いのではなくて、うまく指示を出せなかった私の責任だと思います。

昨今、日本でも手術支援ロボットなどが導入されてきました。当院ではいち早く2019年に泌尿器科・外科で手術支援ロボットを導入し、昨年ロボット手術センターを立ち上げました。しかし、手術支援ロボットも使い方を誤ってしまうと患者様に不利益を与えてしまいます。そこで、当院では事前に十分なトレーニングを積んだ手術支援ロボットの指導資格（プロクター）を有する医師を4人配置し、前立腺がん・大腸がん・直腸脱の治療を行っています。

地域の皆様が、地元で安心して最新の治療に専念できるよう、システムや機器だけでなく、我々自身も日々成長していく2024年にして参ります。皆様の感じられたこと、思われたことなどがありましたら、当法人の職員にお声がけいただけますと幸いです。

皆様の2024年がより良い1年となりますことを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

## ROBOTIC SURGERY ロボット手術センター

ロボット手術センターの動画



一般財団法人同友会 副理事長  
藤沢湘南台病院 副院長

鈴木 紳祐